

会議の名称	加東市生活支援体制整備推進協議会
開催日時	令和 7 年 1 2 月 8 日（月） 午後 1 時 3 0 分から 3 時 3 0 分まで
開催場所	加東市役所 2 階 2 0 1 会議室
会長の氏名（藤原 慶二） 出席委員の氏名 藤原慶二 山口雅隆 荒木昭吾 東 正伸 高松善教 神戸三男 大西重義 藤浦與志夫 梶本俊也 大和田一典 小林咲子 岡田彩葉 森田真加 今榮直子 欠席委員の氏名 内藤喜和 東嶋正一 石井隆文 臼井すず子 藤井貴久代	
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 健康福祉部長 菅野勇一 高齢介護課長 井澤彰子 副課長 高濱さおり 主査 青野真理子	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 開 会 2 あいさつ 3 議事 1) 報告事項 (1) 加東市生活支援体制整備事業の実施状況について【資料 3】 第 1 層及び第 2 層生活支援コーディネーターから資料 3 に基づき加東市生活支援体制整備事業の実施状況について説明 会長：全体と各地域の説明が終わりましたので、質疑あるいはご意見ご感想があればお伺いしますが、いかがでしょうか。 委員：デマンド型交通の利用条件で、旧町を跨いだ移動ができないというのは、今もそのままですか。なぜそういう制約があるのか知りたいです。 委員：バスの公共交通との兼ね合いがあったので、旧町ごとに移動が制限されたという経緯があります。今は旧町地域を越えて移動可能部分の拡大と、目的地の追加もしておりますので、登録者も増えてきております。 会長：民業圧迫という意味でいきなりは難しかったんですが、段階的に利便性が上がってきてるのではないかと思います。個人的には高齢化率が県内で 5 番目に低いと	

というのがなぜなのかずっと気になっています。何か要因があるのでしょうか。

事務局：調査したわけではないですが、例えば滝野地域の下滝野地区や上滝野地区、社地域でアパートがとても増えたことで、若い世代が来たというのがあると思います。

20年、30年前は田んぼだったところにアパートが一気に建ち、県下でも有数の出生率と若い世代が多いというのがあり、その原因はやはりアパートが多かったというのがあります。それから加東市には外国人労働者が多いです。この12月は5%を超えていますので、そういったことが多少影響していると思います。

会長：この人口には外国人労働者も含まれているんですね。

事務局：そうです。

委員：地域別に見ると、滝野地域だけが極端に低い。それ以外は高齢化が進んでいますね。地域ごとに課題が違うということですね。

委員：加東市は非常に阪神間に行きやすいです。加東市にはインターチェンジが2か所あります。それから、JRもあります。大阪や神戸にも1時間で行けます。利便性が高いです。滝野地域は人口が増えているのではないですかね。

事務局：滝野東小学校は子どもの数が横ばいか少し増えてきています。

委員：認知症カフェは認知症の方のみのカフェですか。

事務局：認知症カフェという名称ですが、物忘れ予防という意味もありますので、ほとんどの方が地域に住むお元気な方が行っておられます。認知症予防に取り組まれていたり、参加者が少し認知症になってきても引き続き参加されているなどもございます。必ず認知症の方のみが行くというところではございません。皆さんが混ざり合って、行っていただける場所になっています。

委員：社地域では、LINEで情報共有ができる活動をされているみたいですが、どれぐらいの登録者がいるのか知りたいです。以前に東条地域でされていたと思うのですが、今どうなっているのか、他の地域でもそういったツールを使って情報提供をされているのかお聞きしたいです。

委員：湖翠苑の方にお聞きしたところ、20数名登録されているとのことでした。モーニングの会などで登録してくださいと声かけして、皆さんに登録してもらったということです。

委員：ちなみに、ご家族ではなくて、ご高齢の方が直接登録されているのですか。

委員：そうです。湖翠苑の住民だけのグループLINEですので、基本的には高齢者の方が多くと思います。

委員：東条地域ですが、以前は確かにグループLINEで情報発信をしていたということがありましたが、少し前から全く使っていない状況です。

委員：あいらぶ東条という名前で登録者が結構いらっやと記憶しています。

事務局：滝野地域では特にグループLINEなどはないのですが、最近では地区単位で、

L I N E で連絡を取り合う地区もあるようです。

委員：湖翠苑のグループ L I N E の内容ですが、湖翠苑は溝掃除を担当制にされてまして、掃除が終わった後に、誰々さんが掃除してくださいましたという報告を上げて、そこにありがとうございますという返事を返したり、救急車が止まっていた時に、あそこに止まっていたけど大丈夫だったのかなど、緊急時にも活用されているとお聞きしております。

会長：他、いかがでしょうか。特にありませんか。ないようなので次へ進めます。

続きまして、2) 協議事項 (1) グループワーク「見守りについて考えよう」ということで、皆さんに話し合いをしていただきます。事務局から説明をお願いします。

2) 協議事項

(1) グループワーク「見守りについて考えよう」

事務局から、グループワークについて説明

会長：今から皆さんにはグループワークということで、見守りをしていく上で、自分たちができること、自分というのは皆さん、地域のお立場や職業柄いろいろなお立場があると思うのですが、個人的にできることと理解していただければと思います。もう一方で、自分だけでは少し難しいことが出てくると思うので、そういったものに関しては地域でみんなで助け合って支え合ってできることというものもあると思います。そしてもう一つは、やっぱり行政がやるべきことというものも出てくると思います。そういったものを皆さんでいろいろとアイデアを出し合い分類していただきたいと思います。もう一つお願いしたいのが、実現のための方法というところです。実際に自分ができることとなったときに、その第一歩は何になるのかということです。あとは地域でできることにしても、これを実際にやっていこうとなったときには、どうすれば実現できていくのかという、実現のための方法を考えていただきたいです。もちろん協議会の方ですので、最終的にここの意見から政策形成という行政が実際に政策として取り組んでいくことに繋がっていけばいいのですが、もちろんいきなりそこにいくのは非常に難しい状況であるのも事実です。先ほど出たデマンド型交通も、移動のことをずっと課題として言い続けて10年近く経ってやっとこの一つの形が出来上がってきた経過もありますので、いきなり何でもかんでも行政が頑張れというのも少し違うと思います。行政でなければできない部分もあると思いますので、そこは意見として言っていただいてもいいのですが、こういった場ですので自分たちあるいは地域でできること、自分でできることを考えていただきたいです。言ったら自分がやらないといけないということまで思わなくて大丈夫ですので、これぐらいだったら住民一人一人が気をつければできることかなということで、ご意見を出していただきたいと思います。14時55分まで時間を取りますので、グループワークをよろしくをお願いします。

グループワーク・発表

会長：時間になりましたので、グループで話し合った内容を共有します。発表が終わったら、皆さんの意見をホワイトボードに貼っていきます。では1グループお願いします。

委員：1グループです。自分でできることは、雨戸が閉まったままになっていないかを確認したり、ゴミ出ししている様子を見守ったり、回覧板がしっかりと回っているかなど自分の意識でできることや、見かけたら声をかける、小さな困り事やゴミ出しをお手伝いするなどが出ました。地域でできることは、公民館などのイベントにお誘いしたり、居場所や地域サロン、グランドゴルフに誘うなどです。LINEグループの作成を他の地区でもできたらいいなという意見が出ました。湖翠苑はスマホ教室を地区で行われて、そこからLINEグループを作成されたので、同じように他の地区でも、スマホ教室を開催して、そこから同じようにグループLINEで見守りができたらいいなと思います。シニアクラブでもスマホ教室はしていますが、やはり自分がスマホができればそれでいいという方が多く、なかなかLINEグループを作ったり、LINEグループが見守りに繋がるという意識があまりないと思うので、そういうところにも働きかけができればいいと思いました。行政ができることとしては、訪問して近況を聞いたり、緊急通報システムの取り付けを勧めたり、介護ファミリーサポートの登録について説明するなどです。また、コープこうべでは、配達時に様子を見たり見守りをしておられます。1グループは以上です。

会長：続いて2グループお願いします。

委員：2グループです。自分でできることは、やはり高齢者の見守りで、定期的な訪問や近所の方への声かけなどです。あとは交通安全で、子どもの小学校や中学校への通学状況や、中には右側通行せずに左側通行をしたり、歩いてはいけないところを歩いたりしている状況もあるので、そのことについては直接ではなくいろいろな経路を伝って注意喚起するという意見も出ております。実現のための方法としては、まちかど体操などをPRしてやっていけばどうかということです。地域としましては、毎週、例えば曜日を定めるなどしてその地区の民生委員が担当して見守るということはとても大変なので、そういった関わりが全員といわなくても皆でできるような体制がとれたらいいのではないかとこのころです。今回、話が盛り上がった点は、できるできないは別として、特養施設が主催になって、例えばグランドゴルフや、三世代が集まるようなコミュニティで、先ほど意見が出たのはじゃんけん大会をして景品が出るなど、皆が集まって、地域の人たちが元気で過ごせているかどうか集まる工夫をするという意見が出ました。例えばそれを施設だけでするのはとても大変なので、社会福祉協議会やシニアクラブやいろいろな人たちにも共催してもらって、一緒にできればいいという意見が出ました。高齢者や中間世代、子どもが集まってできればいいという

意見でまとめました。以上です。

委員：3グループです。まだ出ていない意見を中心に発表させていただきます。まず自分でできることでは、挨拶や、自ら地域の活動に参加するという行動部分があがっています。地域でできることは、祭りや敬老会、奉仕作業など、集える場の提供ということがあがっています。また、一人暮らし高齢者の方などの草刈り等の免除や、免除してしまうだけでは孤立してしまうので、そこで元気な方が交代するという関わりを持つというのが出ています。ながら見守りで、畑や散歩に出たときに地域で見守れるような体制づくりや、学校や保育園、高齢者施設などが、学校行事であるマラソンや園の散歩、施設の送迎に伴う外出時の見守りが可能ではないかという意見が出ています。行政の方には、今出たような意見を地域意見の集約として動いていただき、必要であれば制度化していただけたらいいなという意見があがっています。実現のための方法は、自分のところでは、事例を見える化して知ってもらうというところがまず一つ、地域のところでは、組織作りの働きかけをしていくのが大事だという意見が出ました。以上です。

会長：ありがとうございます。まず、簡単に皆さんのご意見をお伺いしながら感じたこととお話をさせていただきます。おそらく2020年にコロナが流行り始めて、集まるということを言葉にしてはいけない、口に出してはいけないような時代が5年ぐらい続いてきたのですが、今はもう病院に行ってもコロナの検査すらしてくれないような状況になっていて、熱が出ていたらインフルエンザの検査しかしてくれなくて、インフルエンザでなかったら行ってもいいぐらいの感じになっています。このような背景が出てきたときに、やっと皆さんの方から、積極的に集まれる場や、集う場、そういった機会をという意見がたくさん出てきたというところが、コロナ禍を経て今の時代に合った形に変わってきてると感じながら聞かせていただいていたいました。いろいろな形で自分でできることや地域でできること、行政にやってほしいことなど、たくさんの意見が出ました。その中で気をつけないといけないことは、どこかのグループで、見張りじゃないという言葉が出ていましたが、見守りは本当に見守る側は真面目にやればやるほどチェックになってきます。本当に監視しているかのようにチェックをしないとイケないと思うと、される側はやはりとても窮屈で嫌な思いをすることがあるかもしれません。もちろんいろいろな形で確認することはできると思います。意見として出たのは、ゴミ捨てや雨戸が閉まってるか、郵便受けに新聞や郵便物が溜まっていないかなどがありました。そのように確認をすることはとても大切ですが、確認した後の対応ですよね。住民としてお互いに生き心地の悪い環境の中で生活するのは嫌なので、確認をした後の対応をどうしていくのかは、今後考えていかないといけないと思います。だからといって、見守りをしなくてもいいというふうにしてしまうと、本当に見捨てられたような感じになってしまうこともありますので、そういったとこ

ろは少し気にかけていく必要があります。あともう一つ、子どもたちの登下校時の交通安全という話がありましたが、やはりこういった場で介護保険法上の話をしていくとどうしても高齢者の話ばかりになってきて、高齢者が活躍できる場や機会を、高齢者が社会参加をするようになど、そういった話し合いに終始してしまいがちですが、実はそれはある意味、専門職やこういった活動に携わる人たちにとっては正しい価値観であると思います。正しい価値観だけを突き詰めていくと非常にやりにくくなってくることがあり、そこに実は子どもと関わる楽しさや、多世代で関わる楽しさなど、楽しさという部分も持っていないと長続きしない。ですので、ただ正しいことだけをやっていたらいいのではなく、そこに何か楽しさや楽しみを付け加えた活動を考えていく、それは決して高齢者だけで考えるのではなくて、他の人たち、わかりやすい例でいうと子どもたちとの関わりもそうだと思います。神戸では、中学校の部活が地域に完全移行していくといわれていますが、そこには高齢者が活躍できるような団体があるかというとはばないような状況です。活躍できる高齢者の方々はいらっしゃると思うので、どこかのグループで意見が出ていましたが、シニアクラブと一緒にやってやるなど、シニアクラブもなかなか今はメンバーが固定化されているなどいろいろな課題がある中で、別の活動とコラボレーションしたような形での活動のあり方を考えていくようにすれば、また一つ違う形ができてくるのではないかなと思いながら聞かせていただいていたと思います。そういったことが地域でたくさん出てくると、本当に加東市は元気な町になってくると思いますし、その中に福祉施設が中心になってやっていることがあったり、福祉施設だけがするのではなくて、そこと地域の活動団体とが一緒になってやるなど。昨日見ていたテレビ番組で、過疎の町に行って、チームコミュニティキッチンのような取組をして、集まってきた人たちが、その地域の伝統である、人が集まって綱引きをするということを復活させる、それが一つのきっかけになり元気になって、神楽を披露する機会を設けていました。もちろんテレビの力はあるのですが、昔からある地域の伝統や行事が今少し衰退してきているような傾向があるのなら、そういうイベントと一緒にやって、時期が違ったとしてもやってもいいのかなと思いました。それぞれの地域特性に応じて、これから皆さんと一緒に考えていかなければいけないと思います。

皆さんの考えていただいた意見がホワイトボードに並んでいます。皆さんのテーブルにシールがあります。1人3枚ずつの投票権があると思ってください。地域でできることで出た意見を全部一気にやりましょうというのはなかなか難しいです。皆さんがこの意見を見て、これだったら実行できそうだというものを三つ選んでいただきたいです。もちろん一つしかない場合は一つでもいいのですが、その意見のところのポストイットにシールを貼ってください。そうすると皆さんがどういうことがやりやすいと思っているのかがわかります。それをヒントにしながら、今度は第一層と第二層

コーディネーターが、自分たちの地域に持ち帰って、協議会でこういう話をしてこういうことになったというところから話が進んでいくようになります。おそらく皆さんは、地域住民の立場もあり、決してやってくださいという話にはならないのでご安心ください。話を聞いたのは一部だと思いますので、それ以外の意見も含めてホワイトボードに貼っていますので、その中で実行できそうなことや、やってみたら意外に面白いかもしれないことなど、ベスト3を選んでいただきたいので、よろしくお願いします。

投票

会長：ありがとうございます。ベスト3でいうと、施設主催でイベントをする、地区のLINEグループ、声かけをしながら見守るです。あとは集いの場の提供です。こうして見ると、地区のLINEグループというのは新たな形ですね、昔でいう回覧板みたいなものだと思います。回覧板がなかなか機能しなくなってきて、若者世代がスマホひとつでいろいろな情報を手に入れるという状況になっている中での形です。だからいろいろな世代で地域というのは構成されているので、そういう意味での難しさもありますし、やはり回覧板には回覧板の良さもあります。それと同時に、やはりいかに集まるのかというところが一つのポイントになってきます。だから集まる場を提供したり、その場を誰がどう作るのかです。先ほど認知症カフェやまちかど体操など、地域の中ではいろいろな形で活動する場や集まる場はあるけれど、なかなかそこに足が向かなかったり、よく地域ケア会議でも、いろいろな活動や場はあるけれど家から場に行く術がないという意見があって、例えば福祉施設などの協力が得られれば、その間の送迎をお願いできたり、いろいろな形が取れるのではないかと思います。可能性は無限大に出てきますが、その可能性が、なかなか実現するまでの調整がうまくいかなかったり大変な思いをされたりしますが、一回やってみるということが大切です。トライアンドエラーを繰り返しながら修正していき、何年後かにいい形になっていくようなやり方もこれからの地域活動ではとても大切になります。私も前の大学で子ども食堂をしていて、初回は本当にグダグダでしたが、一回やるといういろいろとわかってきて、二回目以降はびっくりするぐらいスムーズに150人前のカレーを作り上げることができました。一回やってみて、最初はグダグダでも仕方ないと思います。住民の方もその辺はご理解いただけたと思います。グダグダでごめんなさいと言ったら皆さんそれぐらい許してくれます。実際にやってみるということが、地域活動では大切な心構えだと思います。それで顔が繋がってくると、自然と見守りに派生していき、結局、ながら見守りということになります。何もないところからいきなり、ながら見守りを作っていくのは相当難しいと思います。やはりベースに関係性というものがあるって、それがあつた上での見守りという形にしていけないと、仕組みだけを作っていくと見張りになってしまいます。専門職などが携わっていけば、行き過ぎていると思

ったらストップをかけることができるのですが、住民の皆さんの中で、本当に真面目に真摯に取り組まれているからこそそのトラブルも今後出てくる可能性は十分にありますので、そういったところを冷静に見ていかないといけません。こういったものが、どのように政策化という形で行政の方でバックアップできる形になっていくのかは、難しさはもちろんありますが、そういったところを踏まえて今後考えていく必要性があります。ここでやったことを、皆さん自身で頑張ってくださいという投げやりになることではなくて、皆さん自身も何か可能性があるのではないかと思いながら、今日終わっていただけていると思いますので、その気持ちを持ち続けて、今後の行動に移していただければ、今回この協議会をした意義が出てきます。

皆さんからご意見がないようでしたら、一旦議事の方は終了させていただき、進行を事務局にお返しします。

4 その他

事務局より事務連絡

5 閉 会